

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援センターどんぐり		
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日		R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R7年 4月 1日		R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の課題に応じた支援計画を作成し、指導員等による、個別指導、グループ指導、運動指導、言語指導の実施。また専門スタッフによる療育指導の実施も行っている。	個別指導では身体の発達への促しや、子どもの持っている能力を伸ばし、心豊かな生活が送れることを目標に支援を行っている。また、集団指導では小集団での遊びを通して、社会性を身につけられるよう支援を行っている。専門スタッフによる療育指導では、運動機能の向上、言語発達促進、理解面の向上につなげている。	研修等を実施し職員の資質向上を重ね、個々の発達にあった療育の実施に努める。また、更なる連携を深め、よりよい支援につなげる。
2	中津川市が運営しているため、市の発達支援システムに沿い、関係各課と連携を図りながら、支援を行っている。	各保育園、幼稚園、こども園、小学校、特別支援学校等と連携を取り、子どものよりよい育ちに向けて取り組んでいる。また、中津川市の各関係課との連携を図っている。	専門スタッフの確保を切れ目なく行う。
3	子どもの発達に不安を抱える保護者への支援	子どもの発達に不安を抱える保護者に寄り添いながら保護者支援を行っている。親子関係の基礎づくりとしてペアレントトレーニングの実施、保護者向け研修会や保護者会の定期的開催や卒園児の保護者を招いての情報交流会なども行っている。	今後も保護者の思いやニーズを聞き、保護者会や卒園児の保護者とながら、保護者への支援を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援事業の保護者への周知	保護者への周知の手段の不足	保護者が見やすいホームページやちらし等作成し、より周知が広がるようにしていく。
2			
3			